

日本カメラ博物館 JCI ライブラリー
学芸員 宮崎真二

すずきはちろう

鈴木八郎 (1900-1985) は、1916 年頃から趣味で写真をはじめました。早稲田工手学校 (現：早稲田大学 芸術学校) 建築科中退後も写真館での門弟修行を経て写真雑誌へ投稿を続け、『カメラ』(アルス) 1921 年 4 月創刊号の表紙を飾っています。その後 1923 年まで同誌と『芸術写真研究』の編集に携わりました。1924 年に同人サークル「表現社写真会」を結成して作品展示即売会などを行い、1926 年には写真館の同門であった金丸重嶺とコマーシャルスタジオ「金鈴社」を設立するなど、先進的な活動を続けました。

1931 年からコダック・ジャパン・リミテッドで PR 誌編集に携わったのち、再びアルスで 1936 年 10 月創刊の初心者向け月刊誌『カメラクラブ』編集長に就任したほか、『アルス大衆写真講座』(1937 年～ 全 10 巻) を手がけ、自らの作品集『わが庭を写す』(アルス・1938 年) を刊行しました。



『カメラハンドブック』創刊号

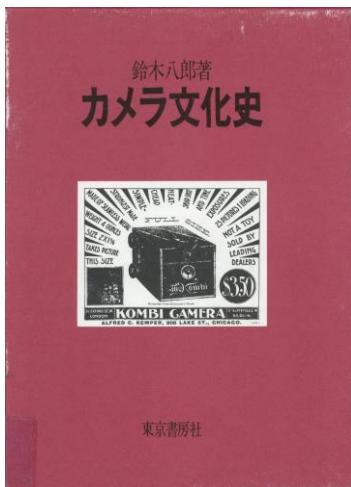
戦後は 1951 年 9 月号から復刊した『写真サロン』(玄光社) 編集長を経て、1954 年 1 月に月刊誌『カメラハンドブック』を自ら創刊しましたが、2 年余りで休刊し大きな負債を抱えました。1958 年には旭光学商事へ入社し、宣伝、サービス部門を経て 1968 年にペンタックス・ギャラリー (カメラ博物館) 館長に就任しました。同館では海外コレクターとの交流により収蔵品拡充に尽力したほか、会報に『ミラーイメージ』の副題を付加して専門誌的なテーマによる編集を行いました。これら長年の写真啓蒙活動に対して 1975 年に勲五等瑞宝章を受章しています。

著書は『写真の失敗と其の原因』(アルス・1924 年) をはじめとして、1950 年代まで写真技法書、処方集を中心に多数あります。

1960 年代以降は古典カメラと写真史に関する著述が多くなります。特に『カメラ毎日』では 1968 年 10 月号から 1977 年 2 月号まで「メカニズムよもやま話」、「カメラの歴史」、「発明された写真の世紀」を連載し、これらの一部を『カメラ文化史』(東京書房社・1974 年) としてまとめています。

1975 年には JCI が刊行した『日本カメラの歴史』で大正期の写真史執筆を担当し、以降も『クラシック・カメラ入門』(朝日ソノラマ・1976 年)、『愛されるベス単』(同・1977 年、共著) などを著したほか、『カメラ毎日』の 1979 年 11 月号から翌年 11 月号まで「カメラ今昔物語」を全 5 回、『日本カメラ』1980 年 2 月号から 12 月号まで「遙かなる大正の思い出」を連載しました。

『アサヒカメラ』1985 年 10 月号の桑原甲子雄「物語昭和写真史」では、鈴木が亡くなる 1 ヶ月前に行ったインタビューが掲載されており、写真雑誌編集が好きという点で意気投合しています。没後の 1988 年には『鈴木八郎写真集』(日本カメラ社) が刊行され、「写真家」「編集者」「カメラ研究家」など生涯を通した多面的な仕事を知ることができます。



『カメラ文化史』